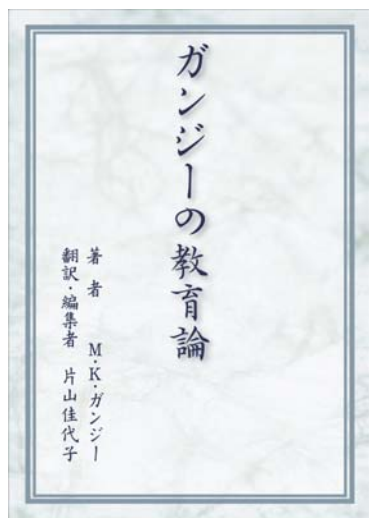


# 『ガンジーの教育論』 M.K.ガンジー著 片山佳代子翻訳・編集

(ブイツーソリューション発行・星雲社発売・800円＋税・B6版156ページ)



ガンジーは1937年に『新しい基礎教育』を提唱し、教育に関する執筆、講演を精力的に行いました。ガンジー全集より、それらを翻訳して出来上がったのがこの本です。

今の時代は、頭だけの学問が先行しすぎているような気がします。書物の知識ばかりを頭に詰め込んでいることが人間を駄目にしており、肉体労働を通じた教育が必要だというのが、ガンジーの主張です。なぜなら、人の知性を高める最善の方法は、肉体労働を知的に行うことだからです。

「子どもたちに教育を与えると同時に、失業の根を断ち切るのだ」と、ガンジーは語ります。今、大学を出ても就職できない若者が大勢います。そのような若者に対して、「自己責任」というひどい言葉を浴びせる人もいます。サラリーマンが消滅しつつある時代に、サラリーマンにしかねない教育しか行われていないとすれば、失業したら自己責任というのは、ひどい話です。

このように弱者に対する思いやりがかけられていることが、格差が広がっていること以上に深刻な問題だと私には感じられます。教育基本法の第一条、「教育の目的」には、「人格の完成を目指す」と書いてあります。人格者でない大人が大勢いるとすれば、教育が機能していないと言わざるを得ません。私たちは、本当に学ぶべきことを学んでいないのではないのでしょうか。そして、いろいろある中でも、私たちが本当に学び直さねばならないこととは、

肉体労働の素晴らしさではないのでしょうか。

今の社会にはいろいろな問題が存在します。環境破壊、資源の枯渇、どれも深刻な問題です。この社会を少しでもよいものにしていくためには、若者の力が必要なはずですが、彼らが、本当の意味で力を発揮できる社会人になっていける、そのような教育が求められているのではないのでしょうか。

これからの教育のあるべき姿を考えた時に、「肉体労働を通して教育を」というこのガンジーの考えに多くのヒントがあるような気がします。(訳者あとがきより)

書店を通じて注文できますし、アマゾン等のネットで購入もできます。

メールでご連絡くだされば、すぐに送らせていただきます。(送料210円)

片山佳代子

Kayokatayama@nifty.com

<http://homepage1.nifty.com/kayoko>

<http://mkgandhi.cocolog-nifty.com/blog/>

## 目次

### 第一章 教育について

教育とは何か

教育の目的：人格の涵養

ゆがめられた教育

伝統文化を否定する教育

### 第二章 肉体労働について

アシュラム(道場：共同生活の場)での教育

肉体労働再考

村を甦らせる教育

非暴力の社会を目指して

アシュラムでの自主的な学び

### 第三章 『新しい基礎教育』とは

手工芸を用いた教育

考えるということ

ダルマ(天の理法)について

全人的教育

糸紡ぎを必須科目に

### 第四章 自力でまかなう教育

肉体労働で知性を発達させ、学校を支える

生活手段を保障する教育

### 第五章 批判に答えて

『新しい基礎教育』を導入して

偏見を超えて

ある大学教授からの反論

奨学金ではなく仕事を

スワラージ(自治・独立)のもとの教育

奉仕を実践する教育

### 第六章 文字の学習

文字を教えることだけが教育ではない

文字を使わない教育の手順

口頭による教育の利点

教科書について

文字の学習について

### 第七章 成人及び女子教育

成人教育

女子教育

### 第八章 英語及び西洋の価値観からの解放



(ブイツーツリビューション発行・星雲社発売・950円＋税)

2004年10月から2009年7月までの約5年間、ガンジー思想を紹介するエッセイを市民メディア「ピースネットニュース」(<http://www.jca.apc.org/peacenet/>)に、連載をさせていただきました。その連載に加筆修正を加えて、整理したのが本書です。

今の日本に生きる私たちにとって、ガンジーの思想がどのような意味を持つのかを私なりの体験をふまえて書かせていただきました。

江戸時代の思想とガンジー思想の共通点にも触れてあります。西洋的考え方の延長線上ではなく、足元にある東洋の叡智に、現代の問題を解決するヒントがありそうです。

書店を通じて注文できますし、アマゾン等のネットで購入もできます。

## 第一章 非暴力と平和

ガンジーと愛国心

良好な日印関係と世界平和

やっぱり必要?! 不服従運動

目的と手段

ガンジーの非暴力

階級闘争と信託制度

## 第二章 スワデシ (国産品愛用) 運動と功利主義

スワデシ運動

功利主義とガンジー思想

## 第三章 江戸時代とガンジー思想

上杉鷹山とガンジー

江戸時代の倫理観

「直耕・直織」の安藤昌益とガンジー

## 第四章 平等とは

男女同権とガンジー思想

農夫や職人が理想の生き方?

ガンジーとカースト制度 112

## 第五章 労働の尊厳を取り戻そう

『この最後の者にも』

肉体労働について

ベーシック・インカムとガンジー思想

## 第六章 建設的仕事を土台にすえて

建設的仕事と不服従運動

機械よりも手仕事を

政治権力と建設的仕事

## 第七章 本物の幸福を求めて

生きるに値すること

忍耐って悪いこと?

小さく生きるということ

「はかどらない」ことの素晴らしさ

## 第八章 競争の経済を批判して

椅子取りゲームから降りよう

ガンジーの経済学批判

最高賃金について

所有の欺瞞

## 第九章 カディー (手紡ぎ・手織り綿布) と村の再建

カディー再考

カディーに固執して

村の再建と民主主義の確立

## 第十章 教育について

村の労働者を育てよう

ガンジーの近代教育批判

アーミッシュの教育

## 第十一章 恐れを克服して

アーミッシュの非暴力

恐れないということ

臆病よりも暴力?

9条世界会議から

## 第十二章 和解へ至る道

理想をあきらめないこと

断食について

狼は子羊と共に宿り

ガンジーと宗教

## 第十三章 講演記録『生活の現場からの社会改革』

第九回非暴力連続講座(二〇〇五年四月二日)より

